

CROSS

今回のテーマ

シニアの起業

人生100年時代。定年退職後や子育て後の第二の人生をどう過ごす？ 自分のための時間が増えるリタイア後こそ、新たなことを始めたり、長年温めた夢をかなえたりするチャンスかもしれません。

シニアだからできる 新しいことへの挑戦

恒 今の事業は51歳のときに、ボランティア活動から始まりました。生ごみを堆肥に変える有用微生物群(EM菌)を知り、共感してくださる家庭へ紹介していったんです。その8年後に取手市からモデル事業としてやってみないかと声を掛けていただきました。

林 水を浄化するEM団子や整流ブロックも扱われているんですよ。私も家のメダカを飼ってるすいれん鉢に使わせていただきました。

恒 市内を中心に、海や河川の水質浄化にも精を出しています。現地に出掛けたり、ブロックやEM団子を会員みなで作っています。知的障害者施設「つつじ園」にも協力いただいています。

林 76歳とは思えないほどア



とりで生涯現役ネット 事業統括員

林 博之さん

Profile

1951年生まれの68歳。電機メーカーの企画開発部門に40年間勤務し、定年退職後に取手市役所を経て取手市商工会で、ネット通販「とりで本舗」をオープン。2018年10月に「とりで生涯現役ネット」の現職に。シェアスペース「スタジオ505」代表も兼任。

恒 50を過ぎて、こんなに夢中になれることに出合えるなんて…と自分でも驚いています。

林 実は窓口には、定年後はそれまでの仕事とは別のこと

TALK

NPO法人緑の会 理事長

恒 恒川 敏江さん

Profile

1943年生まれの76歳。家業の造園業を手伝いながら子どもたちを育て上げ、51歳で環境問題に興味を持つ。有用微生物群を活用した、生ごみ処理、海や河川の浄化活動などを行う「緑の会」を立ち上げ、2000年にNPO法人化し理事長に。

をやりたい、という相談が結構あるんです。

恒 それは少し意外でした！堆肥化事業のシルバーさんは、前職の経験を生かした提案をされることが多いので。

林 もちろん、経験はシニアの強みの一つ。ただ、子育てが一段落して、これからは収入のためでなく自分のために本当に好きなことをしよう、という方も一定数いらっしゃいます。

シニアの元気が街の元気に！

恒 でも、その一方でおうちに閉じこもっている方も多く聞きます。

林 取手市の人口は約10万人。そのうち3割程度がシニア世代なので、3万人が市内にいらっしゃるはずなんです。街であまり見掛けない。

恒 もったいないことです。

林 町内会やイベントに参加するなど、まずは地域活動から始めるのもいいと思うんです。

恒 外に出て、人と接する機会をつくること。それが新しい生きがいにつながるかもしれませんね。私たちの活動にも気軽に参加いただければ。

林 ただ、強みははずの「経験」がデメリットに働いてしまいうケースもあって。人の意見を柔軟に聞き入れられなかったり、現役時代のポストに縛られて、不遜な態度になってしまったら…。

恒 そんな方もぜひ殻をやぶっていただきたい！ 何かに本気で取り組むと楽しいし、知らず知らずのうちに仲間も増えます。私が25年続けられたのは、会員さんの協力があってからこそです。

林 シニアがいつまでも元気に活躍すること。それが地域活性化の力ぎになると私も信じています。



TALK